

～大阪物語 終章～

作・演出 河野明

出演 打上花火

小田史鷹

たかはしみちこ

宣伝美術 世乃不思議

公開ゲネ(無料)

2019

11/16 sat 18:00~

公演日

2019

11/23 sat 18:00~

24 sun 15:00~

30 sat 18:00~

12/01 sun 15:00~

07 sat 18:00~

08 sun 15:00~

※開場はいずれの回も開演の30分前です

木戸銭 1,000円

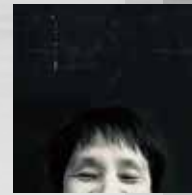
うつぼ舟の翼ある



takahashimichiko

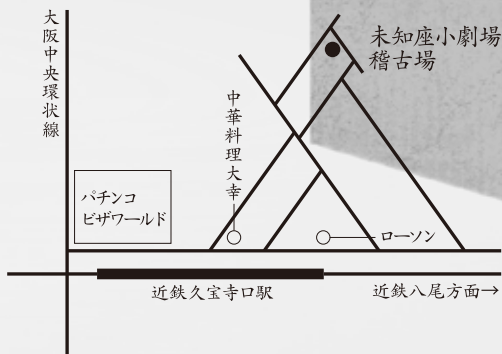


oda fumitaka



uchiagehanabi

二〇一九年・演技について・河野明
終章ですが、なにか？
やはり「演技」のほかにいうことはないようです。例えば、俳優が稽古場のここです、身体の具体的な作業、その一つの歩一歩を、その選択した架設を、これらをイメージの結実した重心の移動であったとします。あるいはまたそれを気力の拡散であったとします。しかし残念ながら常に、これらは客観的事実である、とはなりません。この目的意識的な、置換しえない作業は、真方に見えるとは限らないからです。言い換えれば「わたしたちは総てを理解できないもの」なのだと思われるからです。少し逸脱すれば、これを私は誤解の捏造と呼び、糊塗を凌ぎます。さてですが、この俳優の重心の移動を、ここでは一つの思索の結果で踏み出したものとし、そのときの「一歩」に投げ込まれた、俳優というその身体作業の根拠とはなんであるのかと問うことは、やはりついに、可能であると思います。わたしはいまでもその一歩とともに、定かならぬそんな想いを運んでいる者でありたいと、そのように考えるものです。ですから私は稽古場で「その一歩は何でしょうか？」と当然問うことになる、というわけです。であるなら、この俳優の作業を行為と呼んでみることは十分に可能です。行為とは架設であり、つまり、稽古の場です、選び取った行為は、方法といえより正確となるからです。換言すれば自身の身体への拘りの結果であるということもできますが、それは関係への作業仮説であるという意味で、やはりまだ主観的なものなのです。ここで現象学に倣って主観的という物言いを持ち出すことはできませんが、紙数がありません。演技とは関係性の問題であるとメッセージして、次の機会に譲ります。(上演台本「あとがき」からの引用)



未知座小劇場 稽古場

〒581-0816 大阪府八尾市佐堂町2-2-17

近鉄大阪線「久宝寺口駅」下車 徒歩5分

(近鉄大阪線 各駅停車にご乗車ください)

※駐車場はございませんので車でお越しの方は
近隣のコインパーキングをご利用ください

お問い合わせ：072-996-5078

<https://michiza.officez.jp>

未知座小劇場 ㊄